

# ニュース高等専修

## 単位制・通信制 4月から施行 社会人等の多様な学習ニーズに対応

文部科学省は、専修学校における単位制・通信制の制度化に向けて平成23年度内に関係省令を改正、4月から施行されます。

専修学校はこれまで1年以上の授業時数制・学年制の教育課程が義務付けられており、社会人等の多様な学習ニーズに応えることは、従来での制度では対応できないと指摘されていました。

平成22年6月に閣議決定された「新成長戦略」には、専修学校での社会人受け入れ総数15万人、専修学校への単位制・通信制の導入が盛り込まれたほか、中央教育審議会の『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』（答申）においても、専修学校において単

位制・通信制学科の制度化を図ることが期待されていました。また「専修学校教育の振興方策等に関する調査研究報告」でも、多様な学習者のニーズに応じた学習機会の提供に向けて、単位制・通信制の制度化を求める提言が盛り込まれていました。

4月から施行される単位制の主なポイントは、まず各学年の教育課程区分を設けない無学年制が可能で、修了要件は高等課程の場合23単位（夜間13単位）に修業年限を掛けたものとする、また高等課程における各授業科目の単位数は35単位時間の授業を持って1単位とすること、単位制は届出制となっています。

一方、通信制の主なポイントは、昼間学科及

び夜間等学科（通学制の学科）を既に置く学校であること、通信制の学科における教育は、既に設置する通信制の学科における教育の専攻分野と同じであることが要件となっています。

また授業の方法は印刷教材等による授業と対面による授業（実習、実技、実験、演習又は講義）との併用により行うほか、これらに加えeラーニング等の多様なメディアを利用した授業も可能となっています。

さらにサテライト施設は本校のある都道府県内に置くこと（広域通信制不可）、通信制の学科を設置する場合は所轄庁の認可を要するなどとなっています。

### 専修学校における単位制・通信制の制度化（案）

#### 単位制の主なポイント

##### (1) 各学年の教育課程の区分を設けない学科

教育上有益と認めるときは、学年による教育課程の区分を設けず、各学年の課程の修了の認定を行わないことが可能。

→単位制による学科の設置が可能

##### (2) 単位制による学科の課程修了の要件

- ・高等課程・一般課程 = 23単位【13単位】×修業年限
- ・専門課程 = 30単位【17単位】×修業年限【】内は夜間等

※従来、専修学校の授業時数は、1年当たり800時間以上としていたことを踏まえ、単位制導入による学科の授業時数も800単位時間以上「夜間:450単位時間」の授業を開設。

（単位時間:1コマの授業に当てられる時間で、専修学校については50分を標準とする）

##### (3) 各授業科目の単位数

- ・高等課程・一般課程  
35単位時間の授業をもって1単位
- ・専門課程  
45時間の学修を必要とする内容多をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外の学修等を考慮して次の基準で計算

講義・演習：15～30時間までの範囲で学校が定める時間をもって1単位  
実験・実習等：30～45時間までの範囲で学校が定める時間を持って1単位 等

##### (4) 長期にわたる教育課程の履修

職業を有する生徒等が、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する場合、長期にわたる計画的な履修を認めることが可能。

##### (5) 単位制による学科の科目等履修生

専修学校の生徒以外の者が、専修学校の正規課程の授業科目を履修し、後に専修学校の単位制による学科に入学した場合、入学前に修得した単位を当該専修学校の単位とみなし、その単位を付与することが可能。

#### 通信制の主なポイント

##### (1) 通信制の学科の設置

専修学校には、通信による教育を行う学科（通信制の学科）を置くことができる。通信制の学科を新たに設置する場合は、所轄庁の認可を要する。

要件

- ・昼間学科及び夜間等学科（通学制の学科）を既に置く学校であること
- ・通信制の学科における教育は、既に設置する通学制の学科における教育の専攻分野と同じであること

##### (2) 授業の方法等

- ①印刷教材その他これに準ずる教材を送付又は指定し、主としてこれらにより学修させる授業（印刷教材等による授業）と
- ②対面により行う実習、実技、実験、演習又は講義（対面授業）との併用により行う。

※①・②に加え、多様なメディアを高度に利用した授業（eラーニング等）も可

##### (3) 通信制の学科の課程修了の要件

- ①次の課程の区分に応じ定める単位数以上を修得  
高等課程・一般課程 = 13単位×修業年限（但し、23単位を下ることは不可）  
専門課程 = 17単位×修業年限（但し、30単位を下ることは不可）
- ②120単位時間×修業年限分の授業時数以上の対面授業を履修  
※実習等を中核とする専修学校の特性を踏まえ一定以上の対面授業を必須

##### (4) 通信制の学科における教員数・校舎面積

通信制の学科では、一人の教員が多くの生徒を担当することが可能であり、校舎に通学する生徒数も少なくなることから、

- ・教員数の基準：通学制の算定式の基準を2/3倍
- ・校舎面積の基準：通学制の算定式の基準を3/5倍 とする。

##### (5) 広域通信制の取扱い（サテライト施設を置く場合）

サテライト施設を設ける場合の要件

- ・設置は主たる校地の所在する都道府県の区域内に限る
- ・サテライト施設の校地校舎等の状況、教育体制について所轄庁へ届出
- ・サテライト施設の教育に充てる教員・校舎面積を、教育に支障のないよう増加



開会式であいさつする全国高等専修学校協会・大竹通夫会長=上=とNPO高等専修教育支援協会・堀居英治理事長=中=、文部科学省専修学校教育振興室・佐藤秀雄室長補佐=下=

## 第21回全国高等専修学校体育大会 東北勢が震災復興への「思い」込めて健闘

高等専修学校生のスポーツの祭典「第21回全国高等専修学校体育大会」(全国高等専修学校協会・特定非営利活動法人NPO高等専修教育支援協会主催、全国高等専修学校協会体育振興委員会主管、文部科学省、山梨県、富士吉田市、富士河口湖町、財団法人JKA、専門学校新聞社後援)が7月25日から4日間、山梨県富士吉田市の富士北麓公園体育館をメイン会場に開かれました。

このスポーツの祭典は平成3年、高等専修学校相互の交流とスポーツを通して健全な精神の涵養、体力の向上などを目的に4競技でスタート。回を重ねるごとに出場者、競技種目も増え、平成15年度からは財団法人JKAによる「競輪公益資金」の補助を受けて盛大に開催しています。

大会には岩手、福島、東京、大阪、兵庫、沖縄など9都府県22校、688人の選手が参加。軟式野球、バレーボール、バスケットボール、陸上競技、自転車など10競技41種目で熱戦が繰り広げられました。

富士北麓公園体育館で開かれた開会式では、主催者を代表して全国高等専修学校協会の大竹通夫会長が、「この体育大会は21年前、高等専修学校生にも同年代の高校生と同様に、高校総体のような汗と笑顔と涙の舞台を与えたいという思いから始まった」と大会創設の経緯を述べたあと、「富士北麓公園に来て9年、この素晴



らしい環境の地で開催できることは、行政や各団体の支援の賜物と思っている。先生方の手づくりの大会に皆さんは、日ごろの練習の成果を存分に発揮してほしい」とあいさつしました。またNPO高等専修教育支援協会の堀居英治理事長は「この大会は多くのボランティアの方に支えられて運営している。来賓、大会関係者、保護者ら一人ひとりに感謝の気持ちを伝えよう」と述べ、全員で「ありがとうございます」宜しく願いいたします」と大きな声であいさつを交わしました。

開会式には来賓として、文部科学省専修学校教育振興室の佐藤秀雄室長補佐、富士吉田市の堀内茂市長、富士河口湖町の渡邊凱保町長が出席。佐藤室長補佐は「東日本大震災で、大変な

思いをした人もいると思う。しかし日本は災害と向き合っていかなければならない国土です。皆さんは、これからの日本を担う人材としてぜひ頑張ってください。若いときの体育活動は、大人になっても忘れられないものだ。輪を大切にしながら、思い出に残る大会にしてほしい」と選手を激励しました。

これに応えて、大和商業高等専修学校の川崎裕人選手と専門学校野田鎌田学園高等課程の寺田ほのか選手が「人に元気を与えられるようなプレーをすることを誓います」と元気よく選手宣誓を行い、各種目で熱い戦いが展開されました。

熱戦が繰り広げられた大会では、大竹高等専修学校(東京)が女子バスケットボール、同自転車競技、同駅伝競走、スポーツ吹矢、生蘭高等専修学校(神奈川)が男子バレーボール、同卓球、同バドミントン、同自転車競技の4種目をそれぞれ制したほか、大和商業高等専修学校(神奈川)が女子バレーボール、軟式野球、フットサルで優勝しました。

また大震災の東北から出場した今泉女子専門学校(福島県)が女子バドミントンで優勝したほか、郡山学院高等専修学校(同)が女子卓球で準優勝と健闘。北日本高等専修学校(岩手県)は男子バスケットボールで熱戦を展開しましたが、惜しくもトーナメント戦に進出することができませんでした。



## 成績結果

### ■バレーボール

【男子】①生蘭高等専修学校②大和商业高等専修学校  
【女子】①大和商业高等専修学校②大竹高等専修学校③日本芸術高等学園

### ■軟式野球

①大和商业高等専修学校②生蘭高等専修学校

### ■バスケットボール

【男子】①大阪技能専門学校高等課程②生蘭高等専修学校  
③町田調理師専門学校高等課程  
【女子】①大竹高等専修学校②町田調理師専門学校高等課程  
③専門学校野田鎌田学園高等課程

### ■卓球

【男子】▼団体①生蘭高等専修学校②武蔵野東技能高等専修学校

▼個人①佐藤隼人(町田調理師専門学校高等課程)  
②露木武(生蘭高等専修学校)③上田祐介(郡山学院高等専修学校)福田泰志(生蘭高等専修学校)

【女子】▼団体①武蔵野東技能高等専修学校②郡山学院高等専修学校

▼個人①及川加奈(武蔵野東技能高等専修学校)  
②下枝未来(郡山学院高等専修学校)③保坂由希子(武蔵野東技能高等専修学校)上田祐香(大岡学園高等専修学校)

### ■フットサル

①大和商业高等専修学校②生蘭高等専修学校A③大竹高等専修学校

### ■バドミントン

【男子】▼団体①生蘭高等専修学校A②大竹高等専修学校  
▼個人①永友健太(東京多摩調理製菓専門学校高等課程)  
②清水健亮(生蘭高等専修学校)③小金澤雅弘(大和商业高等専修学校)中嶋天斗(生蘭高等専修学校)

【女子】▼団体①今泉女子専門学校高等課程②生蘭高等専修学校

▼個人①渡辺はるか(今泉女子専門学校高等課程)  
②大野成美(同)③石川貴子(町田調理師専門学校高等課程)加納怜奈(生蘭高等専修学校)

### ■自転車

【男子】▼団体①生蘭高等専修学校A②武蔵野東技能高等専修学校③専修学校中部国際自動車大学校高等課程

▼個人①後藤和成(生蘭高等専修学校)②石川大悟(専修学校中部国際自動車大学校高等課程)③本山要(生蘭高等専修学校)

【女子】▼団体①大竹高等専修学校②生蘭高等専修学校③武蔵野東技能高等専修学校

▼個人①清田さや香(武蔵野東技能高等専修学校)  
②相田晴菜(大竹高等専修学校)③堀越奏実(同)

### ■スポーツ吹矢

▼団体①大竹高等専修学校②生蘭高等専修学校③武蔵野東技能高等専修学校

▼個人①増山優介(大竹高等専修学校)②町田優佳(同)小泉卓斗(生蘭高等専修学校)

### ■駅伝競走

【男子】①武蔵野東技能高等専修学校A②武蔵野東技能高等専修学校B③生蘭高等専修学校A

【女子】①大竹高等専修学校②生蘭高等専修学校③大和商业高等専修学校

### ■陸上

#### ▼種目別成績結果

【男子】▼100<sup>m</sup>決勝=①天久大樹(大育高等専修学校)②末廣クリス(近畿情報高等専修学校)③吉田純也(専門学校野田鎌田学園高等課程)

▼200<sup>m</sup>決勝=①天久大樹(大育高等専修学校)②末廣クリス(近畿情報高等専修学校)③影山剛志(郡山学院高等専修学校)

▼400<sup>m</sup>決勝=①後藤和成(生蘭高等専修学校)②天久大樹(大育高等専修学校)③成田直樹(武蔵野東技能高等専修学校)

▼800<sup>m</sup>決勝=①後藤和成(生蘭高等専修学校)②成田直樹(武蔵野東技能高等専修学校)③濹澤拓也(大和商业高等専修学校)村山大悟(武蔵野東技能高等専修学校)

▼1500<sup>m</sup>決勝=①宮部広季(武蔵野東技能高等専修学校)②藤谷友貴(生蘭高等専修学校)③末松万耀(武蔵野東技能高等専修学校)

▼5000<sup>m</sup>決勝=①宮部広季(武蔵野東技能高等専修学校)②末松万耀(同)③沖元太一(同)

▼4×100<sup>m</sup>リレー決勝=①近畿情報高等専修学校②生蘭高等専修学校A③武蔵野東技能高等専修学校

▼走り高跳び=①南部翔輝(大和商业高等専修学校)

▼走り幅跳び=①末廣クリス(近畿情報高等専修学校)②南部翔輝(大和商业高等専修学校)③長谷川健太(生蘭高等専修学校)

▼砲丸投げ=①常勝(近畿情報高等専修学校)②矢羽田裕光(生蘭高等専修学校)③瀬戸遼(同)

【女子】▼100<sup>m</sup>決勝=①渡部有希(生蘭高等専修学校)②石川祐奈(同)③相田晴菜(大竹高等専修学校)

▼200<sup>m</sup>決勝=①石川祐奈(生蘭高等専修学校)②渡部有希(同)③相田晴菜(大竹高等専修学校)

▼400<sup>m</sup>決勝=①遠藤加奈子(生蘭高等専修学校)②石川祐奈(同)③篠原佳那(大竹高等専修学校)

▼800<sup>m</sup>決勝=①堀越奏実(大竹高等専修学校)②篠原佳那(同)③姉川楓(大和商业高等専修学校)

▼1500<sup>m</sup>決勝=①堀越奏実(大竹高等専修学校)②篠原佳那(同)③小沢有香(生蘭高等専修学校)

▼4×100<sup>m</sup>リレー決勝=①生蘭高等専修学校②大竹高等専修学校

▼走り高跳び=①成田彩(大和商业高等専修学校)②岩見谷未稀(同)

▼走り幅跳び=①渡部有希(生蘭高等専修学校)②成田彩(大和商业高等専修学校)

▼砲丸投げ=①館下愛美(大和商业高等専修学校)

## 平成 23 年度 高等専修学校への都道府県の助成状況

県名	運営費補助	@…生徒一人あたり	設備費補助	生徒への助成	H23 高等課程生徒数	H22 高等学校助成状況
☆ 北海道	学校法人立指定校・技能連携校	@61,400 円		○	1,317	336,757 円
	その他学校法人立	@38,800 円				
青 森	学校法人立 (生徒数が収容定員の 3 分の 1 以上等)	@27,196 円		○	167	316,384 円
	非学校法人立 (生徒数が収容定員の 3 分の 1 以上等)	@12,299 円		○		
☆ 岩 手	学校法人立	@35,960 円			132	324,431 円
☆ 宮 城	学校法人立指定校	1 校 60 万円と @31,037 円			81	307,287 円
秋 田	学校法人立	@34,680 円			94	323,783 円
☆ 山 形	学校法人立指定校・技能連携校	@66,529 円		○	58	322,685 円
	学法立以外	@10,480 円		○		
福 島	学校法人立指定校	@45,000 円	○	○	910	344,435 円
	その他学校法人立	@22,000 円	○	○		
	非学校法人立指定校	@15,000 円		○		
	その他非学校法人立	@ 7,300 円		○		
☆ 茨 城	学校法人立	@49,500 円			638	329,327 円
栃 木	学校法人立	専修学校及び各種学校総額 38,468 千 円			490	312,500 円
☆ 群 馬	学校法人立・財団法人立指定校	@78,900 円			275	344,933 円
	学校法人立・財団法人立非指定校	@19,670 円				
	法人立	@74,060 円		○	495	267,303 円
☆ 千 葉	学校法人立	@159,403 円		○	741	312,143 円
☆ 東 京	学校法人立	@150,000 円	○	○	3,177	387,499 円
	非学校法人立	@50,000 円		○		
	私立専修学校障害児教育事業費補助金 ( 1 )	@392,000 円				
神奈川	学校法人立	@127,826 円	○	○	1,889	287,376 円
	非学校法人立	@20,900 円	○	○		
☆ 新 潟	学校法人立	@20,000 円		○	120	342,092 円
富 山	知事特認校加算	350 万 円			162	330,641 円
	学校法人立	1 校 100 万 円	○			
	学生生徒割 (専修学校総額)	470 万 円				
石 川	学校法人立指定校・非指定校含む	@27,100 円	○		97	342,453 円
福 井	学校法人立指定校	@45,000 円	○	○	116	340,131 円
山 梨	学校法人立 (県内生)	1 校 50 万円と @ 4,000 円			86	338,560 円
	学校法人立 (県外生)	1 校 50 万円と @ 2,000 円				
長 野	学校法人立	@46,440 円			211	313,947 円
☆ 岐 阜	学校法人立技能連携校	@58,412 円		○	791	332,109 円
	個人立高等課程			○		
☆ 静 岡	学校法人立	@86,510 円	○		1,411	343,543 円
愛 知	学校法人立	@130,200 円		○	6,633	298,520 円
	非学校法人立	1 校 978,600 円		○		
☆ 三 重	学校法人立指定校	1 校 15 万円と @27,820 円		○	590	314,642 円
	学校法人立非指定校	@18,500 円		○		
	個人立	1 校 23 万 円		○		
滋 賀	学校法人立技能連携校	@79,000 円			93	315,000 円
京 都	学校法人立 (修業年限 3 年以上)	1 校 270 万 円	○	○	707	334,902 円
	学校法人立 (修業年限 3 年未満)	1 校 230 万 円	○			
	複数学科加算分	1 学科 55 万 円				
☆ 大 阪	学校法人立	@277,924 円		○	4,601	275,528 円
	非学校法人立			○		
☆ 兵 庫	学校法人立指定校	@149,000 円		○	1,673	337,455 円
奈 良	学校法人立	1 校 150 万と @34,000 円		○	546	317,500 円
和歌山	学校法人立	@30,000 円			89	327,680 円
鳥 取	(専修学校全体) 17 校	総額 1,545 万 9 千 円		○	254	458,238 円
	(そのうち、技能教育施設) 3 校	総額 8,244 万 1 千 円				
☆ 鳥 根	学校法人立指定校	@98,756 円		○	155	299,034 円
	学校法人立非指定校	@24,802 円		○		
岡 山	学校法人立		○		253	325,514 円
広 島	学校法人立 (3 年制)	@36,000 円		○	1,606	336,647 円
☆ 山 口	学校法人立指定校	@70,000 円			682	337,500 円
徳 島					201	324,380 円
香 川				○	203	319,944 円
愛 媛					268	291,787 円
高 知	学校法人立	@21,160 円		○	84	318,143 円
福 岡	学校法人立指定校	@22,500 円	○	○	2,772	331,313 円
佐 賀	学校法人立	@11,262 円		○	763	335,818 円
長 崎	学校法人立	@6,300 円			477	331,705 円
熊 本	学校法人立指定校	@15,000 円		○	872	312,991 円
大 分					446	306,143 円
☆ 宮 崎	学校法人立	@253,628 円	○	○	578	314,207 円
鹿児島	(学校法人立専修学校全体)	総額 3,322 万 1 千 円			158	316,100 円
沖 縄	学校法人立指定校	@ 7,000 円			703	318,316 円

(1) 交付年度 5 月 1 日現在障害児が在籍。  
 (☆印は前年度比単価等が増額した都道府県)

H23 高等課程生徒数 全国平均  
 38,865 325,518 円  
 (文科省学校 (全国私立学校審議会  
 基本調査) 連合会調査)

発行: 全国高等専修学校協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 (私学会館別館)

TEL.03(3230)4814 FAX.03(3230)2688